

事業名：7 養殖事業展開可能性調査事業

課題名：マサバ

期間：H24～32年度

予算：6,122千円（うち国庫2,107千円）

担当：養殖・漁場環境室（水本 泰）

目的：

鳥取県で現在進めている養殖振興について、考える魚種や飼育手法について実際に飼育を行い、それに係るコスト等を検討し、それらの養殖事業展開の可能性を調査する。

マサバについては、養殖事業化に向けた課題となっている生産効率の向上を図るため、高成長、高生残、低コスト化等を目指すための試験を行った。

成果の要約：

1 調査内容

(1) 種苗生産試験（委託）

マサバ親魚から安定的に採卵するための人為催熟、採卵の技術向上に向けた試験を、（公財）鳥取県栽培漁業協会（以下、「栽培漁業協会」という）へ委託し、実施した。

(2) 産卵期後半の採卵試験（委託）

マサバ種苗生産期間の拡大を目的に、井戸海水を用いた産卵期後半における採卵試験を、栽培漁業協会へ委託し、実施した。

(3) 飼料種類による高水温耐性比較試験

夏場の高水温期の斃死の抑制および成長維持を目的に、各飼料が生残率、成長に及ぼす影響を調査した。

(4) 低水温時の適正給餌方法の調査

冬場の低水温時に生じる成長停滞、生産効率の悪化を改善するため、飼料の種類、給餌方法が成長に及ぼす影響を調査した。

(5) 高成長個体の選抜育種

高成長のマサバ系統を作出するため、栽培漁業協会と県内養殖業者が行う選抜育種の取り組みの効果調査を行うため、魚体重等の計測を実施した。

(6) 養殖事業化に向けた技術指導

鳥取県内で新たにマサバ養殖に取り組み始める養殖業者等を対象に、飼育管理に係る現地指導等を実施した。

2 結果の概要

(1) 種苗生産試験（委託）

2018年3月～6月にかけて、採卵、種苗生産が実施され、限られた数のマサバ親魚から、安定的に浮上卵が得ら

れることが確認された。また得られたマサバ種苗のうち4,000尾を、栽培漁業センターで行う養殖試験へと用いた。

(2) 産卵期後半の採卵試験（委託）

2018年7月下旬～8月中旬にかけて、マサバ親魚に人為催熟を施し採卵を試み、一部個体から浮上卵を得ることができた。ただし、親魚の麻酔による斃死や、採卵不調の個体の多発等があり、安定的かつ量産規模で浮上卵を得るためには課題があることが確認された。

(3) 飼料種類による高水温耐性比較試験

2018年6月～10月にかけて、マサバ種苗に異なる飼料や添加物を与え、高水温時の生残率や成長比較等を行う養殖試験を実施した。得られた結果については、県内のマサバ養殖技術指導を行うための参考とした。

(4) 低水温時の適正給餌方法の調査

2018年11月～2019年3月にかけて、異なる飼料や隔日給餌などによる、成長比較等の養殖試験を実施した。得られた結果については、県内のマサバ養殖技術指導を行うための参考とした。

(5) 高成長個体の選抜育種

2017年から海面養殖で育成されたマサバ1歳魚（F1世代）の測定を行った。取り組み開始1年目の2018年度に得られた結果は、選抜育種の効果検証の基礎資料とする。

(6) 養殖事業化に向けた技術指導

2017年度から新たにマサバ養殖事業を開始した養殖業者などを中心に、3業者に対して技術指導等を実施した。

成果の活用

・試験結果は種苗生産や養殖現場での技術指導等を行うための基礎資料とする。

参考文献

なし